

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

JSA ソフトボール

2026年/令和8年
第492号

3月号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



令和7年度全国審判員・記録員中央研修会 (2026.2.6~8 / 愛知県刈谷市)

C o n t e n t s

- ・第2回男子U23ワールドカップ、組み合わせ決定! …2
- ・女子TOP日本代表レポート ……4
- ・令和7年度全国審判員・記録員中央研修会 ……8

- ・令和7年度第5回理事会議事録 ……12
- ・事務局だより ……18

第2回男子U23ワールドカップ 「組み合わせ・スケジュール」決定!

来る4月25日～5月3日、コロンビア・シンセレホを舞台に開催される「第2回男子U23ワールドカップ」の組み合わせ・スケジュールが決定し、このほど正式発表された。

2023年アルゼンチン・パラナで記念すべき第1回大会が開催されて以来「2回目」となる今大会には、各大陸予選を勝ち抜いた11チーム（アジア・オセアニア①・日本①、シンガポール⑩、オーストラリア⑥、ニュージーランド⑦、ヨーロッパ・チェコ⑨、デンマーク⑯、北中南米・ベネズエラ②、アルゼンチン③、カナダ④、メキシコ⑧、アフリカ・南アフリカ⑭）に開催国・コロンビア⑬を加えた合計12チームが出場。男子U23カテゴリー「世界一の座」をかけた激闘が繰り広げられる。

※○数字は世界ランキング

昨年6月にタイ・バンコクで開催された「第2回男子U23アジアカップ」（ワールドカップアジア地区予選）には、全日本大学連盟の全面的な協力のもと「U23大学男子日本代表」を構成し、出場。見事「全勝優勝」を飾り、「アジア1位」でのワールドカップ出場権を勝ち獲った。**（※大会の詳細はこちら）**
前回準優勝の日本は、アルゼンチン、ニュージーランド、チェコ、コロンビア、南アフリカと同じ「グループA」

に振り分けられ、まず大会初日第3試合でチェコと対戦。「世界の頂点」をめざす「チャレンジ」をスタートさせることになる。

今大会も日本戦「イニング速報&現地レポート」を日本協会オフィシャルホームページ上に随時掲載予定。

日本男子ソフトボールの「若き才能」選ばれし16名の熱き戦いに、乞うご期待!
（※大会出場選手名簿等はこちら）



前回準優勝を経験している八木孔輝、永吉飛斗の「リーダーシップ」に期待。U18ワールドカップ優勝メンバーも今大会でさらに「成長・飛躍」してほしい!



次代のホープが繰り広げる激闘に注目



WBSC
U-23 MEN'S
SOFTBALL
WORLD CUP
SINCELEJO 2026

FOR THE TITLE OF
WORLD CHAMPION

25 APRIL-3 MAY

OPENING ROUND																
ESTADIO 20 DE ENERO					ESTADIO EDUARDO PORRAS											
APR 25																
1	10:00		ARGENTINA	VS		N. ZEALAND	2	11:00		SINGAPORE	VS		VENEZUELA			
3	13:00		CZECHIA	VS		JAPAN	4	14:00		CANADA	VS		DENMARK			
5	16:00		MEXICO	VS		AUSTRALIA	19:00 OPENING CEREMONY ESTADIO 20 DE ENERO									
6	21:00		COLOMBIA	VS		S. AFRICA	APR 26									
8	11:00		SINGAPORE	VS		MEXICO	7	10:00		VENEZUELA	VS		DENMARK			
10	14:00		AUSTRALIA	VS		CANADA	9	13:00		S. AFRICA	VS		N. ZEALAND			
11	17:00		ARGENTINA	VS		JAPAN	APR 27									
14	11:00		DENMARK	VS		SINGAPORE	13	10:00		JAPAN	VS		S. AFRICA			
16	14:00		AUSTRALIA	VS		VENEZUELA	15	13:00		CZECHIA	VS		ARGENTINA			
17	17:00		MEXICO	VS		CANADA	APR 28									
20	11:00		DENMARK	VS		AUSTRALIA	19	10:00		S. AFRICA	VS		CZECHIA			
22	14:00		VENEZUELA	VS		MEXICO	21	13:00		CANADA	VS		SINGAPORE			
23	17:00		N. ZEALAND	VS		JAPAN	APR 29									
24	20:00		COLOMBIA	VS		ARGENTINA	26	11:00		CZECHIA	VS		N. ZEALAND			
28	14:00		DENMARK	VS		MEXICO	27	13:00		S. AFRICA	VS		ARGENTINA			
29	17:00		VENEZUELA	VS		CANADA	APR 30									
30	20:00		JAPAN	VS		COLOMBIA	#*	TBD	A3	VS	B3	#*	TBD	A6	VS	B6
SUPER ROUND & PLACEMENT ROUND																
APR 30																
#*	TBD	A2	VS	B2	#*	TBD	A5	VS	B5							
#*	TBD	A4	VS	B4	#*	TBD	A1	VS	B1							
MAY 1																
#	TBD	A3	VS	B2	#	TBD	B6	VS	A5							
#	TBD	A2	VS	B1	#	TBD	A6	VS	B4							
#	TBD	B5	VS	A4	#	TBD	A3	VS	B1							
#	TBD	A1	VS	B3	#	TBD	B3	VS	A2							
MAY 2																
#	TBD	A3	VS	B1	#	TBD	A6	VS	B5							
#	TBD	B3	VS	A2	#	TBD	B6	VS	A4							
#	TBD	A5	VS	B4	#	TBD	B2	VS	A1							
WORLD CHAMPIONSHIP FINAL & BRONZE MEDAL GAME																
MAY 3																
Estadio 20 de Enero																
49	TBD	4 th Place Super Round	VS	3 rd Place Super Round	BRONZE MEDAL GAME											
50	TBD	2 nd Place Super Round	VS	1 st Place Super Round	WORLD CHAMPIONSHIP FINAL											
CLOSING CEREMONY ESTADIO 20 DE ENERO																

GROUP A

- ARGENTINA
- COLOMBIA
- CZECHIA
- JAPAN
- N. ZEALAND
- S. AFRICA

GROUP B

- AUSTRALIA
- CANADA
- DENMARK
- MEXICO
- SINGAPORE
- VENEZUELA

*Super/Placement Rounds: In games between equal seeds, a coin toss determines the home team.

NOTE: Head-to-head results of Opening Round games between 3 nations that advance to the Super Round will carry over and will count to determine 4 nations qualified for the Final Round as well as overall competition standings. The same methodology applies to Placement Round.

戦え！力の限り！！

●女子TOP日本代表レポート●



ワールドカップ連覇
オリンピック3大会連続の金メダルへ



強化本格化

「ワールドカップ連覇」「オリンピック3大会連続金メダル」を目標とする女子TOP日本代表が、昨年末から「第3次国内強化合宿」、年明け早々の「第4次国内強化合宿」「第1次海外強化合宿」「第2次海外強化合宿」を矢継ぎ早に実施。「世界一」であり続けるために強化を本格化させている。

女子TOP日本代表は、12月4日（16日、群馬県高崎市で「第3次国内強化合宿」を実施。各所属チームに分かれて「皇后盃 全日本総合女子選手権大会」「JDリーグ」での「優勝」「日本一」の座をめざし、しごぎを削った長いシーズンを終え、久々に「日本代表」が集結。代表チームとしての活動を再開させ、「ワールドカップ連覇」「オリンピック3大会連続金メダル」をめざす強化を本格的にスタートさせた。

「第3次国内強化合宿」は「国内強化合宿オフィシャルサポートパートナー協定」を締結している糸井ホールディングス株式会社のサポートを受け、実施。合宿には「代表初選出」の選手もおり、フレッシュな顔ぶれでの合宿となり、当初は昨シーズン「現役復帰」を果たした我妻悠香選手も合宿参加メンバーに入っていたが、再び「現役引退」の意向が公表され、「支援コーチ」としての参加となった。



取材に応える宇津木麗華ヘッドコーチ

チームを率いる宇津木麗華ヘッドコーチは「今回の合宿は従前の合宿と違い、糸井ホールディングス株式会社のサポートを受け、実施できていることにまずは感謝申し上げたい。今回招集した選手たちを見ると、東京2020オリンピックで金メダルを獲得した選手たちに比べ基本的な「力」「パワー」が足りない。どちらかといえば「タイミング」でプレイしている選手が多く、『タイミング』が合わないとまったく打球が飛ばない。まずは基本的なトレーニングを積み重ね、『タイミング』を外されても外野まで打球を運べるような「力」「パワー」を身につけさせたい」と語っていた通り、「トレーニング重視」の合宿となった。

選手たちには、自らの「限界」に挑み、それを超えていくために、極限まで自分を追い込む過酷なトレーニングメニューが課されていた。

年明け早々の1月15日〜25日には、長崎県大村市を合宿地として「第4次国内強化合宿」を実施。

長崎県大村市は、高校男子ソフトボールの「常勝チーム」で、「男子TOP日本代表」「男子U18日本代表」等、日本男子ソフトボールのトップ選手を多数輩出する「長崎県立大村工業高等学校」(※春の全国高校男子選抜大会で4連覇を含む最多9回の優勝、夏のインターハイでも連覇を含め6回日本



「第3次国内強化合宿」参加メンバー



「第4次国内強化合宿」は長崎県大村市の熱烈な歓迎を受け、実施された

一に輝いている)があることでも知られ、2024年はインターハイ男女、2025年は全国高校女子選抜大会を開催する等、ソフトボールの全国規模の大会を積極的に誘致している「ソフトボールの街」である。

昨年6月には「公益財団法人日本ソフトボール協会」と女子TOP日本代表国内強化合宿を長崎県大村市で実施する「覚書」を締結。また、その宿泊飲食、輸送等を同市「幸運ホールディングス株式会社」がサポートする「オフィシャルパートナー協定」も結ばれている。

翌日から本格的な練習をスタートさせたが、公開練習前にも盛大な歓迎セレモニーが執り行われ、前日に続き園田裕史大村市長、幸運ホールディングス・馬場邦彦代表取締役社長をはじめ大村市を挙げて女子TOP日本代表チームの合宿を歓迎。駆けつけた多くの関係者、ソフトボールファン、報道関係・メディアの「注目」「期待」を改めて感じながら強化に励んだ。



大きな注目を浴びる中、強化に励んだ

1月15日(木)、女子TOP日本代表は長崎空港で園田裕史大村市長、幸運ホールディングス・馬場邦彦代表取締役社長をはじめとする地元関係者の「熱烈な歓迎」を受け、宇津木麗華ヘッドコーチ、石川恭子キャプテン、上野由岐子選手、後藤希友選手、切石結女選手の5名が大村市役所を表敬訪問。園田裕史市長らと歓談するひとときを持った。

第1次海外強化合宿／オーストラリアカップ



全勝優勝！

女子TOP日本代表は、続く1月25日～2月6日、「第1次海外強化合宿」をオーストラリア・ブリスベンで実施。その合宿中の1月29日～2月1日、同地で開催された「オーストラリアカップ」に出場。「世界ランキング1位」の女子TOP日本代表は、オーストラリア（同11位）、ニュージーランド（同23位）と対戦した。

大会は連日のダブルヘッダー、最終日に至ってはトリプルヘッダーという「超過酷なスケジュール」が生まれ、日本国内では経験することのない連戦を戦うことになった。

大会初日、初戦のニュージーランド戦は12-0の4回コールド勝ち。ダブルヘッダーとなったオーストラリア戦は初回に3点を失う予想外の展開となったが慌てず騒がず7-4の逆転勝ち。大会2日目もダブルヘッダーとなり、ニュージーランドに8-1の5回コールド、オーストラリアにも5-0の完封で勝利を収め、4連勝を飾った。

大会3日目も3日連続のダブルヘッダーとなり、ニュージーランドに12-1の4回コールド勝ち。オーストラリア戦は初回に2点を失う苦しいスタートとなり、二転三転の好ゲームを展開。5-5で迎えた7回裏、最後はワイルドピッチでサヨナラというあつけない幕切れで女子TOP日本代表が6-5

のサヨナラ勝ちを収めた。

大会最終日はトリプルヘッダー。ニュージーランドに10-0で5回コールド勝ちを収め、オーストラリア戦はまたしても大苦戦。初回に1点を先制しながら、その裏、一挙4点を奪われ、最終回ツアアウトまで2-4と2点をリードされ、「あと一人」で試合終了という「絶体絶命」の状況から下山処理の起死回生の適時二塁打で4-4の同点に追いつくと、中溝優生、工藤環奈のタイムリーで3点を勝ち越し。その裏、今大会驚異的な粘りを見せるオーストラリアに2点を返され、なお二死・二塁の「一打同点」「長打が出れば逆転サヨナラ」のピンチが続いたが、先発・中邨花菜の後を受けた勝股美咲が何とか踏ん張り、7-6の1点差で逃げ切り。8戦全勝の1位で「優勝決定戦」進出を決めた。

「優勝決定戦」では「ホーム」の熱い声援を受け、女子TOP日本代表を苦しめてきたオーストラリアと5回目の対戦。初回に大川菜由の適時二塁打、大会MVPに輝く活躍を見せた山内早織のツーランホームランで3点を先制。1点を返されて迎えた4回裏には藤森捺未が4点目となるタイムリーを放ち、4-1とリードを広げ、先発・坂本実桜、後藤希友の継投でそのまま逃げ切り、9戦全勝で優勝を飾った。

オーストラリアカップ 日本戦 試合結果 ※大会出場メンバー、試合結果詳細はこちら



8-1 WIN

GAME 3 vs New Zealand



7-4 WIN

GAME 2 vs Australia



12-0 WIN

GAME 1 vs New Zealand



6-5 WIN

GAME 6 vs Australia



12-1 WIN

GAME 5 vs New Zealand



5-0 WIN

GAME 4 vs Australia



4-1 WIN

GAME 9 Final vs Australia



7-6 WIN

GAME 8 vs Australia



10-0 WIN

GAME 7 vs New Zealand



※スコアをクリックすると試合レポートがご覧になります



「球春」を告げる「全国審判員・記録員中央研修会」が2月6日（金）8日（日）の3日間、愛知県刈谷市・刈谷市産業振興センター、双葉グラウンドを会場に開催された。

この「全国審判員・記録員中央研修会」には、全国47都道府県協会の審判委員長・記録委員長、またはそれに準ずる「指導的役割」を担う審判員・記録員が集結。来るべき「新たなシーズン」に向け、ルール改正点や審判委員会、記録委員会に関する「競技者必携」の改訂・修正点等を研修した。

全体研修（審判の部・記録の部 合同研修）



研修会初日（2月6日／金）、愛知県刈谷市・刈谷市産業振興センターを会場に「開講式」が行われ、まず主催者を代表して、（公財）日本ソフトボール協会・西康弘常務理事（事業運営本部長）が挨拶に立ち、「この研修会に参加する皆さんは各都道府県支部協会の『指導的役割』を担う審判員・記録員であり、それぞれの委員会を引っ張っていく『リーダー』でもある。ここで研修したことを各ブロック、各都道府県支部、市町村に至るまで、間違いなく、しっかりと伝達し、各都道府県がここで示される『統一見解』『委員会方針』に則り、同じ目線、同じ歩幅で、歩んでいけるよう実りある研修にしてほしい」と期待を込めて激励。

続いて、この「全国審判員・記録員中央研修会」の開催を引き受け、主管している愛知県協会・亀田正隆理事長が登壇し、「この全国審判員・記録員中央研修会を愛知県で開催するようになり、15年（刈谷市で開催するようになって14年）もの月日を重ねてきた。この研修会を実りあるものとするために、愛知県協会、刈谷市連盟総力を挙げてサポートしていきたいと考えている」と全面的なバックアップを約束してくれたが、「2年に一度の隔年開催になったとはいえ、この研修会の開催には準備段階から大変な労力が必要になる。そ

れでも皆さんに喜んで帰ってもらえること、いい研修ができたといってもらえることが何よりのやり甲斐であり、次も愛知県での研修会が開催されるのであれば、よりよい研修会とできるよう努力していきたい」と開催地の苦勞を忍ばせながら歓迎の言葉を述べた。

この後、研修会では本格的な研修内容に入り、まずは審判委員会・記録委員会合同で「ガバナンス・コンプライアンス研修」を実施。（公財）日本ソフトボール協会の顧問弁護士・大嶽雄輝氏を講師として研修が行われた。

続いて、（公財）日本ソフトボール協会審判ルール委員会・神谷和宏委員長、同記録委員会・遠藤正人委員長により、「2026オフィシャルソフトボール」の改正点の研修が行われた。

まず神谷審判ルール委員長が「2026オフィシャルソフトボール」の「まえがき」を引用する形でルール改正点の概要を説明。

これに続き、遠藤記録委員長が今度はそのルール改正点を資料に基づき、一つひとつ確認。何がどう変わったのか、前年までと比較しながら詳細な説明・解説を行った。

※2026オフィシャルソフトボール
ルール改正点一覧資料はこちら

「審判の部」 研修



「審判の部」の研修は、ルール改正点・修正点、その具体的な適用について研修し、「競技者必携」の改訂・修正点も入念な確認作業が行われ、ルール、必携ともに大きな改正点、改訂・修正点はないことが報告された。

※2026「競技者必携」審判の部
改訂・修正点一覧資料はこちら

また、待望久しかった「オフィシャルソフトボールルールケースブック」改訂第7版がお披露目され、新たに「動画」を導入したこと、豊富な新設問題を盛り込み、従前の問題も「より分かりやすく」をモットーに改編したことが説明・紹介された。

「審判実務について」の研修では、研修会2日目に行われる「実技研修」へ向け「試合のスピードアップ」、「打者走者の防具の取り外し」、「基本動作の確認」（球審の構え、「三振振り逃げのゼスチュアと動きについて」）を重点項目とし、研修が進められた。

また、ここで研修する内容は（公財）日本ソフトボール協会として「機関決定」したものであり、勝手に個人の解釈・見解や意見を付け加えたり、修正を加えたりすることはできないものであることが強調された。

特に重点の置かれた「試合のスピー

ドアップ」については、試合の長時間化が問題となっている「日本男子ソフトボールリーグ」での試合進行において、「二塁塁審もしくは副審」がストップウォッチで投球間隔を計時。捕手が投球を捕球してから25秒以内に投球を行わなかった場合には「クロックバイオレーション」を適用し、「ペナルティワンボール」とすることが確認・研修された。

また、インニング間の攻守交代についても、攻撃終了となる「第3アウト」から「1分間」で次のインニングを始めるルールを遵守するため、1分間の目安となるBGM（音楽）を流し、45秒が経過したところで音楽を止め、その時点で準備投球は「残り1球」とすることの徹底が求められた。

これらに付随し、選手間の打ち合わせは1イニング1回とすること、内野手のボール回しでもできる限り円滑にスピードデーリーを行うこと等、試合のスピードアップにつなげるべく徹底が図られた。

この「重点項目」を中心に、2日目の「実技研修」で実践。「基本動作の確認」「ストライクゾーンの確認」「投球判定」「不正投球の判定基準」「各塁における伝達事項の確認」「ローテーション」の研修を実施。

最終日はルール・必携に関する質疑応答や地区伝達における伝達事項の確認を徹底し、全日程を終了した。

「記録の部」 研修



「記録の部」の研修は、「競技者必携」の改訂・修正点についての研修が、安東文雄副委員長を講師として行われ、「公式記録員規程」の第2条（公式記録員の種別と任務）3において、「日本男子・女子ソフトボールリーグ」「JDリーグ」を除く「全国大会」（全日本大会）で、支部記録委員長が認めた場合のみではあるものの、「第2種公式記録員」であつても全国大会の記録業務に携われるようになった。

※2026「競技者必携」記録の部
改訂・修正点一覽資料はこちら

その後、2025シーズンの各大会を振り返り、問題点や課題を洗い出し、検証・確認、記録委員会としての「統一事項」を全員で再確認し、「グループ討議」ではDP・FP・OPOの絡む難解な交代事例を取り上げ、グループ（ブロック）ごとに意見を集約し、記録委員会としての「統一見解」が導き出された。今回の研修では公式記録員としての「原点」に立ち返ることをテーマに、「スコアカードの点検」の研修では、研修生のみならず、講師を務めた記録委員会のメンバーも「点検試験」にチャレンジ。「公式記録員」としての自らの姿と向き合い、見つけ直す時間を持った。また、「スコアカードの記帳」の研

修では、実際の試合の映像を見ながらスコアカードを記帳。その際、一球一球「ストライク」「ボール」と発声し、目の前のプレイを確認しながら記帳していく研修を行った。グラウンド上で起こるすべてのプレイを注視し、ありのままを正確に記帳していくために、一つひとつのプレイを「声」に出して確認。その上で記帳していく研修に重点が置かれ、多くの時間が割かれた。「国際大会の派遣報告」の研修では、昨年、中国・成都で開催された「ワールドゲームズ」に派遣された八木美代子委員が、大会期間滞在中の宿舎や食事といった日常生活から国際大会における記録業務に至るまで、細かく、丁寧に紹介。今後は国際大会派遣の記録員は「ライセンス制」となる見込みであり、そのための人材育成も必要になってくるとの報告がなされた。

最後に、遠藤記録委員長が3日間にわたる研修会を総括し、「記録の部」の研修は全日程を終えた。

※令和7年度
全国審判員・記録員
中央研修会

▽詳細レポート・動画



令和7年度 第5回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会すると同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認。

理事25名中出席16名（欠席9名）、監事出席3名で定款第36条に基づき本理事会は成立。

なお本日は牧島会長が欠席のため、理事会運営規程に基づき、議長は出席理事の中から互選された理事があたることとし、出席理事全員の議事録署名を行うことが確認された。

● 審議事項

第1号議案 本理事会の議長選任

岡本専務理事兼事務局長より、理事会開催に先立ち説明された本理事会における議長について、理事互選が求められ、宇津木副会長より、岡本専務理事兼事務局長を議長とする提案があり、全会一致で承認された。

期日…令和8年2月1日（日）
13:00～14:35

場所…東京・新宿

Japan Sport

Olympic Square

インターネット会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…16名

欠席理事…9名

出席監事…3名

第2号議案

令和8年度事業計画案

瀬戸山総務委員長より「令和8年度事業計画書」の内容及び事業計画案について説明された。

◎ 主な事業

（1）国内普及事業

小学校低学年および幼児における未経験者への普及振興事業、幼児期からのベースボール型体験プログラム普及振興事業（ASOBAL）、併せて学校体育ベースボール型授業研修会における普及振興事業の継続を図る。引き続き日本リーグ・JDリーグ加盟チームおよび日本トップリーグ連携機構によ

るソフトボールクリニック、ボールゲームフェスタの参加、普及本部を中心に次年度以降の普及事業の検討を行う。

(2) 日本代表選手の選考・派遣

第2回男子U23ワールドカップ派遣、男子U18日本代表選手選考会の実施、第9回男子U18アジアカップ派遣、第18回女子ワールドカップ・グループAステージ派遣、第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)ソフトボール競技派遣、女子大学日本代表選手選考会の実施、第5回女子大学アジアカップ派遣、女子U15日本代表選手選考会の実施、第3回女子U15アジアカップ派遣を行い、国際大会開催では日米対抗ソフトボールを読売新聞社と共同で開催する。

(3) 研修会開催

隔年開催となっている中央研修会について、令和8年度は審判員・記録員中央研修会を実施せず、指導者中央研修会を実施し、昨年より実施している未来発掘育成事業(MIRAI)についても引き続き実施する。

(4) 全日本大会開催

例年通り開催を計画するが、近年の地球温暖化に伴う夏季大会における熱中症対策として、今年度は新たに小学生種別で秋季大会を試験的に開催し、その効果を検証する。

これに付随し日本リーグ男女日程案、

および共同主催であるJDRリーグ日程案についても説明がなされた。

以上の説明を受け、審議が行われ、「第2号議案」は原案通り承認された。

「第2号議案」に関連し、松田選手強化本部長から、各カテゴリーの「アジアカップ」の日程が確定したことを受け、当該カテゴリーの選手選考会の日程を設定していくことが説明され、了承。続いて、八田常務理事から「中長期計画PDCA委員会」について、その取り組みに対する考え方・取り組みについて質問があり、執行部よりASOBALL等による普及活動、収益事業の強化、ロサンゼルスオリンピックを契機としたスポンサー活動の活性化が急務であるという認識が示された。

これに対し、八田常務理事より「5年後、10年後の『あるべき姿』の理想像を描き、バックキャストイングしていくような考え方が必要で、現状の課題解決だけでなく、5年後、10年後へ向けた中長期的なビジョンを議論していく必要性があるのではないか」との意見が出され、「今後、少子化はさらに進み、登録人数・チーム登録数が減っていくことは避けられない事実・現実があり、毎年何%減っているという統計を出したところで、実はあまり意味がな

い。現状の延長線上で対策を考えるのではなく、未来の理想像から逆算して今何をすべきかを考える『バックキャストイング』の思考法への転換が必要であり、人口減少という不可避な外部環境の変化に対し、抜本的な構造改革こそが必要ではないか」との意見が出された。

第3号議案

令和8年度収支予算案

石井財務委員長より「令和8年度収支予算案」について、「第2号議案」で承認された「令和8年度事業計画」に基づき策定された予算概要とその主なポイントが説明された。

全体で経常収益、経常費用ともに6億8千339万1000円の収支均衡の予算となる。会計毎の収支については、公益目的事業会計は経常収益が5億5千792万2230円、経常費用が5億8千350万5900円で、2千558万3670円のマイナス、収益事業等会計は経常収益が6千631万7500円、経常費用が1千548万5200円で5千83万円のプラス、法人会計は経常収益が5千915万1270円、経常費用が8千439万9900円で、2千524万8630円のマイナスとなっており、収益事業等会計のプラスを50%以内で公益目的事業会計

法人会計に振り分けることができることから、それぞれ2千541万6150円ずつ他会計振替を行い、当期一般正味財産増減額は、公益目的事業が16万7520円のマイナス、収益事業等会計はプラスマイナスゼロ、法人会計は16万7520円のプラスとした。公益目的事業の経常収益の主な増減について、受取登録料については、全体としてチーム登録は4%減、審判員は1600人減、記録員は100人減で算出。その上で公益と法人の配賦比率を79%対21%としている。事業収益では、チーム、審判員、記録員の減少に伴う認定料の減少、ルール、必携、スコアリングマニュアル、指導教本の販売減がある一方で、ケースブックは改訂初年のため1千400万円の増、協賛金収益は、今年度より宇津木麗華副会長が獲得した糸井ホールディングス、幸運ホールディングス、伊藤副会長から紹介があり、獲得したオリエンタルバイオを含むが、東京エレクトロン、フォーデイズなど新たに獲得をめざす協賛分を見込んだ金額設定とし、450万円の増とし、前年対比1千85万円で算出。受取補助金では、JOC(公益財団法人日本オリンピック委員会) 選手強化委託金が3千163万円の増で算出しているが、こちらは最大値での計算であるため、変動する可能性があることを補足。ス

スポーツ振興くじ助成については、MIR AI事業をくじ助成の対象から外したことから395万円の減、その他受取補助金は、合宿開催自治体等からの助成を見込み345万円の増とし、前年対比3千113万円の増で算出。受取負担金について、女子TOPの合宿増により個人負担金が1千114万円の増、講習会負担金は、コーチサミットの参加見込減で109万円の減、その他負担金として、JDリーグとの共同主催契約見直しで、運営費負担金を2年前の水準に戻したことで1千万円の増、前年対比2千4万円の増で算出。受取交付金はJOC交付金を今年実績で191万円の増、受取寄付金では、ミズノスポーツ振興財団の補助金増やオリンピック準備に向けた寄付の増を見込み、550万円の増で算出。経常収益の前年対比は2千140万円増の5億5千579万2千300円となる。

公益目的事業の経常費用の主な増減について、臨時雇賃金が1千110万円の減、公益専門委員会旅費交通費については節約を反映しながらも、役員改選に伴う各委員会の編成変更があることから、会議が増加することを見込み、254万円の増とした。大会リーグ旅費交通費についても、節約を心掛け、224万円の減とした。講習会関係では、中央研修会が令和8年度は審

判員・記録員ではなく、指導者の順番となることから500万円の減。MIR AI事業については、くじ助成からは外れるが、ミズノ財団や普及向けの協賛により賄いながら内容の見直しを図るため453万円の減。ASOBALLは、昨年度よりお願いしている用具代の利用者負担により100万円の減とした。また、公認コーチ養成講習会を実施予定で262万円の増、全体としては781万円の減とした。選手強化事業について、国際大会派遣は男子U23ワールドカップがロシア、女子ワールドカップ・グループステージ派遣がベルギーと遠距離・遠隔地での大会開催となり、日数が通常よりも増加するが、アジア競技大会が愛知県安城市と国内開催であるため、2千217万円の減で算出。海外強化合宿は、女子TOPで2度の海外強化合宿を計画しているが、第1次はワールドカップ・グループステージと日程をつなげて実施することから、飛行機は減額となるが滞在費が多くなり、1千458万円の増となる。国内強化合宿について、女子TOPが5回、女子U15と女子大学が各1回予定。その他、男子U18と女子U15、女子大学が選考会を予定しているため回数は増加。協賛金収益や受取補助金の増加と対比すべき部分であるが、前年比3千696万円の

増となる。国際大会開催については、日米対抗の開催で102万の増を見込んでいるが、大会協賛や入場料収入が大きく増収に振れた場合は、こちらの支出がなくなり、逆に収入が増加する部分となることから、開催に関係する支部、および周辺の支部協会、関係各位には入場券購入の協力を依頼している。登録事業委託費について、現在岡本専務理事兼事務局長が各ブロックを訪問し、説明している通り、令和9年度に向け、予定するチーム登録規程の大幅改正に合わせて、シクミネットの改修で416万円の増を見込んでいる。全日本大会委託費については、秋季小学生大会が試験的に新設されることから324万円の増。講習会委託費については、各都道府県での普及事業委託費として10万円を交付する事業を20支部で算出した。また審判員の減少対策として、3ブロック研修委託費を計上した。消耗品費は各種講習会のボール等消耗品の費用増を見込む。経常費用の前年対比は5千356万円増の5億8千350万5900円となる。

収益事業等会計における収益の特筆事項は、ゴムボールが新意匠球の導入初年となること、また、各種メーカーのご理解とご協力により、用具検定料のロイヤリティを従来から4%程度値上げしたことにより、3千万の増とし

ている。これらは用具が売れることが前提となるため、大きく下回る可能性もあることから、協賛金、補助金等、別途の収入を引き続き模索していく。必要な支出は行うものの、無駄な支出は避ける必要がある。

法人会計における費用の特筆事項は、国際関係事業費は、WBS C(世界野球ソフトボール連盟)総会の開催がない年度となるため減少、法人専門委員会旅費交通費については、役員改選に伴う理事会等会議の増、シクミネットの説明会対応があり増加するが、国際関係、弁護士報酬、役員報酬の見込みを落とし、1千198万円減の8千439万円で算出。公益旅費交通費と同様、これまで通りの運用ではこの予算では収まらないことが想定されるため、すべての役員、委員が節約を心掛けることが必要。

収支差額がプラスマイナスゼロであるため、一般正味財産期末残高は2億1千893万8775円、指定正味財産3億円を加えた期末残高は5億1千893万8775円と、前年度と変わらないことが説明された。

以上の説明を受け、審議が行われ、審議の結果、「第3号議案」は原案通り承認された。

**第4号議案
資金調達及び設備投資の
見込みについて**

岡本専務理事兼事務局長より、当期において、重要な資金調達および設備投資の予定はないことが報告され、全会一致で了承された。

**第5号議案
総務委員会提案・報告事項**

瀬戸山常務理事・総務委員長より、前回理事会でゴムボール種別は確定していたが、革ボール種別については「**継続審議**」としていた「令和7年度全日本大会・リーグ使用球割当」の最終案が提示された。

併せて2026年全日本大会開催地用運営マニュアルが配布され、内容について説明があり、2026年度の全日本大会については、このマニュアルに基づき運営することが提案された。

続いて「令和7年度第4回総務委員会」の議事録が配布され、審議内容が報告された。なおサスペンデッドゲームにおいて、翌日の試合を1試合として換算するかどうかに関する議論については、状況により解釈が異なることから「**継続審議**」とし、現状において

行われている「両チームと大会運営責任者との協議」で当面進めていくことが確認された。

以上の説明・報告を受け、「第5号議案」は原案通り**承認**された。

**第6号議案
リーグ委員会提案事項**

西常務理事・リーグ委員長より、2026年度の日本男子・女子ソフトボールリーグの日程案が提示され、原案通り**承認**された。

また、昨年10月末、男子決勝トーナメントへの出場が決まっていたHondaが所属選手の不祥事により出場辞退をした経緯と、その対応と処分について、リーグ委員会で審議された内容が提示され、理事会での了承が求められ、提案内容については原案通り**承認**された。

第7号議案

**審判ルール委員会
提案・報告事項**

神谷常務理事・審判ルール委員長より、令和8年度JDIリーグ・日本女子リーグ担当審判員の選考結果について名簿が提出され、承認が求められた。

併せて「令和8年度第1種公認審判員認定会」の開催計画について、一覧表が提示された。

次に「令和7年度終身審判員」58名の一覧表が提出・提案された。

最後に「令和7年度第2回審判ルール委員会」の議事録が配布され、審議内容が報告された。総務委員会と同様に、審判委員会においてもサスペンデッドゲームの問題は「**継続審議**」となっていることが報告され、その理由として、画一的なルールを定めると現場の多様な状況に柔軟に対応できなくなる可能性があるため、現時点では明確なルールを設けない方が望ましいとの意見が大勢を占めたことが報告された。

以上の提案・報告を受け、審議が行われ、審議の結果、「第7号議案」は原案通り**承認**された。

第8号議案

記録委員会提案・報告事項

西常務理事より「令和7年度終身記録員」11名の一覧表が提出・提案され、承認された。併せて「令和7年度第2回記録委員会」の議事録が配布され、審議内容が説明された。

これに付随し、試合会場におけるWiFi環境の整備や対応、複雑な選

手交代（DP・FP・OPP）が絡む選手交代）について、誤りがあった場合、試合中に審判員・副審に助言できる方法や試合後、チームへの指導を徹底する必要性等を議論してほしいとの意見・要望が出された。

**第9号議案
選手強化本部提案事項**

松田常務理事・選手強化本部長より、前回理事会で承認されていた男子U23日本代表チームのコーチングスタッフについて、浦本大嗣氏（Honda）よりアシスタントコーチ辞任の届出があり、新たに西一也氏（デンソー）をアシスタントコーチとし、野本誠士氏（高知パシフィックウエーブ）をマネージャーとすることが提案され、**承認**された。

なお男子U23ワールドカップは4月25日～5月3日、コロンビア・シンセレホで開催される予定である。

第10号議案

**アジア競技大会
スーパースターズの推薦について**

岡本専務理事兼事務局長より、愛知県古屋アジア競技大会組織委員会よりスーパースターズ推薦の依頼があり、

松本良就氏（元デンソー男子ソフトボール部）を推薦することが提案され、原案通り承認された。

第11号議案
春季全日本小学生女子大会への移籍選手特例出場について

磯谷常務理事より、埼玉県協会理事長として、同協会の登録手続不備のために予選大会へ出場できなかった移籍選手の春季全日本小学生女子大会出場について「特例」での参加を認めてほしいとの提案がなされた。

本提案に至る経緯としては、部員減少により「合同チーム」を結成せざるを得ないチーム事情から、年度内にやむなく移籍した選手3名について、現行規定では出場が認められない状況にあった。一方で、協会の登録システムがオンラインと紙ベースで統一されていなかったことに起因し、同様の移籍を行った別の選手が、紙ベースでの登録受付における県協会の登録ミスにより結果的に出場可能となる事態が発生したことが説明された。本来、同様の手続き、扱いとなるべき選手でありながら、一方は同年度内の移籍であるため、大会への出場不可。一方は偶発的な手続きのミスで大会への出場が認め

められるという状況に「不公平感」が生じてしまったことが説明された。「子どもたちに罪はない」という観点や協会側のミスであることから、県協会では今後「再発防止策」を講じ、徹底していくことを前提に、今回は当該選手3名の出場を「特例」で認める措置が求められた。

以上の経緯説明と提案趣旨の説明を受け、審議が行われ、「今回は全国大会に出場するチームであったことから、このような形で表面化したのが、今後、中学校も部活動の地域移行（地域展開）により、クラブ化が進むことが予想され、小学生においてもチームが途中で成り立たなくなることも予想される。年度途中の移籍について早めに対応を検討すべき」「今後、少子化が進む中でチームが成り立たないという状況が出たときに、チーム事情で年度途中の移籍を余儀なくされた場合の新たなルールが必要」「社会人や大人のチームであればルールに従うべき……：案件だが、子どもたちの大会であること、また、紙ベース、オンラインベースの登録が混在する過渡期の状況によって二重登録の問題が発生してしまい、ルールとはいえ、子どもたちの夢や希望を閉ざし、奪うような措置はいかがなものか」との意見が出され、今回の

提案に関しては「特例」で出場を認め、早急に新たなルール、規程を作っていくことが確認された。

また、これも懸案事項に挙げられている「県跨ぎでの登録」（隣接する市町村等で居住地と異なる都府県に登録を希望するケース）についても検討し、競技人口・チーム登録数の減少が顕在化し、さらに進行していくと予想される中、愛好者が希望する形でチーム登録・競技続行を可能とする柔軟な対応を求める意見・要望が出された。

第12号議案

役員候補者選考委員会について

岡本専務理事兼事務局長より「令和8・9年度役員候補者選考委員会」の委員について、委員候補者が次のように提案された。

- ・ 瀬戸山 章氏
- ※重任されないことが明らかな理事委員
- ・ 岩田 文昭氏
- ※有識者委員
- （公財）日本スポーツ協会常務理事兼事務局長
- ・ 澤出 梨江氏
- ※有識者委員

- （株）ユナイテッドスポーツ
- （一社）国スポサポートセンター
- ・ 雑賀 大策氏
- ※評議員委員

- （一社）三重県ソフトボール協会
- ・ 鈴木 利夫氏
- ※監事委員
- 重任されない事が明らかではないため、3名の監事の互選で決定

- ・ 加瀬 俊介氏
- ※事務局委員（課長）

以上の提案を受け、審議が行われ、委員候補者名簿の策定の経緯については「空欄」となっていた部分が、今回はすべて記名された名簿として提出されていること、会長・副会長が全員揃っていない中で公益財団法人として大切な2年間を左右する人事を決めてしまつて良いのが確認された。

これに対し、岡本専務理事兼事務局長より、役員選考委員会の決定は理事会であり、理事会は会長・副会長も出席するべきであるが、出席することが前提ではなく、本日はそれが叶わない状況であるが定足数を満たし理事会は成立しているため、予定通り開催していること、なお議事録は、代表理事が会議に参加できない場合は出席理事全員からの署名が必要となること、最終

決定は理事会であり、本日の理事会で委員候補者を決め、委員長が理事会、評議員会で発表していく流れとなる。ところが説明された。併せて委員候補者選定の経緯と牧島会長からは理事会の決定に一任されていることが説明され、公益財団法人としての手続き上にも問題がないことを確認。本日の理事会で決定することが改めて諮られ、審議の結果、「第12号議案」は賛成多数で原案通りの内容で承認された。

**第13号議案
令和7年度第2回定時評議員会の招集について**

岡本専務理事兼事務局長より「令和7年度第2回定時評議員会」についての次の通り開催・招集することが提案された。

- ・日時 令和8年2月22日（日）13時
- ・会場 品川プリンスホテル
- ・およびウェブ会議併用
- ・ハイブリッド形式
- ・議題
 - 第1号議案 議長の選出
 - 第2号議案 議事録署名人の選出
 - 第3号議案 令和8年度事業計画案

第4号議案 令和8年度収支予算案
第5号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて

なお評議員会は予定された議題以外の審議・決議を行うことはできないため、報告および意見交換は評議員会をいったん閉会してから行うこと。また、今年度末は各支部協会でも役員改選があり、次期理事候補者となる現評議員も想定されることから、評議員任期は4年間であるが、やむを得ない理由で評議員を変更する場合は、事務局に変更を提出し、評議員選定委員会で審議・了承された後に、新たに変更となる評議員が就任する形となる。補足説明され、「第13号議案」は提案の通り承認された。

●報告事項

1. 各委員会・プロジェクト報告

審議事項の中で、各委員会から報告済み。

2. JDRリーグ共同主催契約の修正

岡本専務理事兼事務局長より、今回の収支予算にも反映している内容であるが、JDRリーグとの共同主催契約に

おける運営負担金について、2年前の水準に戻す形で1チームあたり130万円（総額2千80万円）に改定されたことが報告された。

・その他

(1) 審判員の派遣報告について

鈴木常務理事より、自身が派遣理事となった大会において、長時間の中断があり、この確認のため、大会派遣審判員の報告書を確認したが、未だに確認できていないことが報告された。

これに関し、神谷審判ルール委員長からはJDRリーグ、日本リーグは大会派遣審判員が報告書を提出しているが、全日本大会では開催地から報告書が提出されていることから、特に審判員からの報告書は提出していないことが説明された。全日本大会も日本協会からの審判員派遣であることから、JDRリーグ、日本リーグ同様、派遣審判員に報告書を提出させるべきではないかとの意見が出され、今後の検討課題とすることが確認・了承された。

(2) 東北ブロック大会における指導者のクレーム

対応について

鈴木常務理事より、国民スポーツ大会・東北ブロック大会で指導者に不適切な言動があり、それに対し、日本協会がどのような対応を取ったか説明が求められた。

これに対し、松田選手強化本部長より、当該監督に直接指導を行った旨の回答がなされた。

(3) 記録委員会規則内における日本協合理事の表記について

磯谷常務理事より、記録委員会規則に記されている役割に関する記載（「理事1名」）が、現在の役員構成と整合性が取れていないため、規則の修正が必要であるとの指摘があった。

(4) 春季全日本小学生女子大会について

瀬戸山常務理事より、3月に鹿児島県で開催される春季小学生女子大会について、参加申込が35チームとなったことから、これで大会の準備を進めること、併せてチーム数が少なくなったため、当初4日間開催を予定していたが3日間開催に大会期間を短縮することが説明・報告された。

事務局だより

球春、間近！

2026年もはや3月半ばにさしかかり、いよいよ「球春」が間近に迫る時期となった。

例年同様年度末開催される「春の全日本大会」（※高校生／全国高校選抜大会、中学生／都道府県対抗全日本中学生大会、小学生／春季全日本小学生大会）を皮切りに、本格的なシーズンの幕開けを迎えることになる。



「春の全日本大会」を皮切りに、新シーズンの幕が上がる！

・3月20日（金・祝）～23日（月）
高校選抜男子／高知県高知市
高校選抜女子

／大阪府大阪市
和歌山県紀の川市
奈良県広陵町

・3月21日（土）～23日（月）
春季小学生男子

／広島県尾道市・三原市
・3月26日（木）～28日（土）
都道府県対抗中学生男子
／熊本県水俣市

・3月27日（金）～29日（日）
都道府県対抗中学生女子

／群馬県高崎市・渋川市
春季小学生女子／鹿児島県南九州市

4月に入ると、5年目のシーズンを迎える「J.D. LEAGUE」そして「男女日本リーグ」も開幕。

「J.D. LEAGUE」「日本男子リーグ」が4月10日（金）にレギュラーシーズンの戦いをスタートさせ、「日本女子リーグ」は翌週／4月18日（土）、熱戦の火蓋が切られる予定となっている。



全18チームと大所帯の男子リーグは混戦必至



女子リーグも各地で熱戦を繰り広げる



J.D. LEAGUEは5年目に突入！